

JPA NEWS LETTER

No.01 January 2005

……CONTENTS

- I. 会長のご挨拶
- II. 日本光線力学学会 開催歴
- III. 第14回 日本光線力学学会 学会後記
- IV. 第14回 幹事会報告
- V. JPA 収支報告
- VI. 第15回 日本光線力学学会開催のご案内
- VII. 2005年度 学会開催のご案内
- VIII. 学会事務局からのお知らせ
- IX. 新規入会のご案内
- X. 日本光線力学学会 役員
- XI. 編集後記



……加藤治文会長のご挨拶

「JPAの発展を期して」

JPA 会長 東京医科大学外科学第一講座 加藤治文

Photodynamic therapy (PDT)が臨床に応用され、早期がんの完全治癒例が経験されるようになり、臨床家や研究者の興味がPDTに集まりつつあった1986年に当時の東京医大外科の早田義博教授によってIPA (International Photodynamic Association、国際光線力学学会)が設立されました。その日本支部会として1991年にJCIPA (Japan Chapter of IPA)が発足し、年1回の研究会の開催で会員数も徐々に増え、新しい腫瘍親和性光感受性薬剤、レーザー装置の開発、治療領域の拡大など発展して参りました。そして10年後の2001年からは日本光線力学学会として出発することになりました。

PDTの歴史は今から100年前に遡りますが、当然のことながら適切な薬剤と光源の問題から普及することなく半世紀が過ぎました。1960年代になりますと米国のMayo ClinicのLipson等が、がんにも効率的に集積するhematoporphyrin誘導体(HpD)を開発し、この分野は急速に発展することになりました。HpDはがん病巣に特異的に集積し、光線照射によって光線力学的反応が惹起されることが証明され、当時R. Fontana、D. Sanderson、D. Cortese等によって気管支の診断的有用性が検討されておりましたが、1970年代になりますとRoswell Park Memorial InstituteのThomas J. Doughertyが、現在のPDT発展のきっかけとなった動物の原発性悪性腫瘍のPDTを試み、その成果を基に、臨床応用として乳がんの皮膚転移巣で局所制御効果が報告されました。わが国では1978年、Doughertyとの共同研究により、私共の犬肺がんモデルを使っての内視鏡的PDD (Photodynamic Diagnosis)およびPDTの前臨床試験を行い、安全性と有効性を確認後、臨床応用として1979年11月肺がんの診断的蛍光観察(PDD)を、1980年1月乳がんの皮膚転移巣に対してPDTの効果を確認、1980年3月に早期肺がんのPDTが施行しました。74歳の男性で右B2bに発生した2mmの扁平上皮がんでありましたが、完治を得ることができました。すべての臓器を含め、この内視鏡的PDTは世界最初の試みでありました。これを動機に全世界的に内視鏡的PDTが普及することになりました。1982年厚生省がん助成金研究班(早田班)、1986年加藤班によってわが国におけるPDTの基礎および臨床的研究が精力的に行われ、その成果を基に1989年から1992年に亘って早期の肺がん、胃がん、食道がん、子宮頸部がん、膀胱がんに対するPhotofrinとexcimer dye laserによるPDTのPhase II多施設共同臨床試験がおこなわれました。そして、その有効性と安全性が確認され、1994

年に厚生省の認可を、1996年に保険収載されました。

現在までに多くの臓器の悪性腫瘍、感染症、血管新生抑制、代謝性疾患の診断や治療に研究と臨床応用がされてきています。

患者のQOLを配慮した低侵襲性治療は、時代の流れでありましてこの中でもPDTはまさにそれに適応した治療法ではありますが、一方では根拠に基づいた有効性と安全性が要求されます。

より適切な薬剤や光線発生装置が開発されつつあり、今後の臨床応用が期待されます。

JPAは患者の利益を追求した更により良きPDD及びPDTの発展を目的とした学会であります。より腫瘍に親和性を有する光感受性薬剤の開発、励起光源であるレーザー装置の更なる開発によってQOL維持の治療法の確立を目指した学会として発展して行くことを期待します。

……日本光線力学学会 開催歴

	開催日時	大会長	場所
第1回	1991年10月 6日	早田 義博	東京
第2回	1992年 9月 5日	中島 進	旭川
第3回	1993年10月10日	奥田 茂	大阪
第4回	1994年 9月 3日	竹村 健	札幌
第5回	1995年11月 3日	平嶋 登志夫	東京
第6回	1996年11月 9日	阪田 功	岡山
第7回	1997年 5月24日	西坂 剛	石川
第8回	1998年 6月 6日	三木 徳彦	大阪
第9回	1999年 5月22日	會沢 勝夫	東京
第10回	2000年 5月20日	金子 貞男	岩見沢
第11回	2001年 5月19日	吉田孝人、平野 隆	浜松
第12回	2002年 5月25日	林 潤一	東京
第13回	2003年 3月22日	室谷 哲弥	東京
第14回	2004年 5月29日	南 三郎	鳥取

……第14回学術集会並びに市民公開講演会を終えて

第14回 日本光線力学学会学術集会会長 南 三郎

第14回日本光線力学学会学術集会を平成16年5月29日に鳥取駅前のホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」で開催いたしました。参加者数は事前登録者33名、当日登録者56名、学生聴講者15名、計104名で盛会でありました。特別講演は「光によるガン治療への取り組み」と題し、浜松ホトニクス株式会社常務取締役晝馬日出男様にご講演をいただきました。ご講演の内容は、「光とは」にはじまり、最近のガン診断治療まで世界に誇る浜松ホトニクスの技術力のすごさを1時間に凝縮して、しかもわかり易く解説していただき、日本の光線力学の明るい未来が認識できました。晝馬常務様にはこの紙面をお借りして重ねて御礼申し上げます。学術集会は開発、メカニズム、応用、臨床の4セッションに演題を分類し、計22題の発表をいただきました。開発セッションではPhotodynamic Diagnosis、Photodynamic Anti-microbial Chemotherapy、PDT monitoring、PDT光源に関する新しい情報が発表され、メカニズムセッションでは殺腫瘍効果、動脈硬化治療機序、アポトーシス誘導機序、リュウマチ性関節炎の破壊機構、応用セッションではBPD-MAの応用、子宮がんへのPDT advanced therapy、滑膜肉腫、軟骨肉腫への応用、臨床セッションでは皮膚悪性腫瘍、口腔がん、進行胃ガン、動物の腫瘍への応用と物理学、化学、医学、歯学、獣医学の広範囲な学問分野からの多彩な発表があり、終始極めて熱心な討議が得られました。

本学会は国際光線力学学会日本支部研究会から発足し、平成14年の第12回学術集会（林 潤一会長、杏林大学）から学会として大きく成長し、昨年は第13回を佐々木研究所付属杏雲堂病院 室

谷哲弥先生が宮崎の世界学会（加藤治文会長）に先駆けて「基礎と臨床の最前線」と題して更に大きくまとめられました。第9回国際光線力学学会を加藤会長がまとめられましたように、この分野における研究、開発は日本が先端であり、世界最高水準の研究成果が学術集会を通じて報告されてきております。このような伝統と権威のある学会を鳥取の地に誘致できましたことは、世話係といたしましてこの上ない光栄なことと感謝しております。しかしながら、鳥取を含め山陰の地には医学を中心とした研究、臨床は未だ育っておらず、我々獣医学が僅かにその一端を研究しているに過ぎません。この学術集会を契機として、鳥取県民の皆様に素晴らしい治療法を理解していただくために、学術集会に先立ちまして市民公開講演会「ヒトに優しいがん治療」を企画いたしました。鳥取市の中心にあります鳥取県民文化会館小ホールで実施し、約150名の一般市民の方が熱心に耳を傾けていただきました。学会長加藤治文先生をはじめ、奥仲哲弥先生、中村哲也先生、室谷哲弥先生、岡本芳晴先生にはご多忙の処、快く御講演を引き受けていただき心より感謝申し上げます。患者に優しい癌治療は誰もが切望する内容であり、本学会の発展のためにも今後も公開講演会の開催は本学会の意義を深めて行くものと考えております。

鳥取は人口には恵まれません、その分自然に恵まれ、海の幸として松葉蟹、白いか、アワビ、サザエなど、山の幸として鳥取和牛、らっきょ、砂丘長いも、二十世紀梨、巨峰など食通ならずとも、食欲を引き立てる特産品がそろっております。鳥取県は名水でも知られ、地酒は銘柄も多く、学会の前日にはゆっくりと楽しまれたことと存じます。また、県内には伝統のある温泉が10カ所（岩井温泉、鳥取温泉、吉岡温泉、浜村温泉、鹿野温泉、東郷温泉、羽合温泉、三朝温泉、関金温泉、皆生温泉）、鳥取砂丘を含めた山陰海岸国立公園、大山を中心とした大山隠岐国立公園の2つの国立公園を県内に持ちます。鳥取市内には荒木又右衛門遺品館、仁風閣、国府万葉館（大伴家持が万葉集を編纂した）等見所も多く、学会の帰りには鳥取の風情を十分に堪能していただけたことと存じます。ご参加いただいた先生方の益々のご発展と本学会の発展を祈念いたします。明年は浜松で素晴らしい大会が開催されることを期待しております。

……第14回 日本光線力学学会 幹事会報告

- ・年会費徴収法の変更； 年会費（5000円）の徴収を振り込みによる年1回の徴収とする。
- ・委員会発足；編集委員会、ガイドライン委員会、会則委員会を発足、下記の通り各委員長を任命した。

編集委員長：	中村哲也	幹事
ガイドライン委員長：	奥仲哲弥	幹事
会則委員長：	室谷哲弥	幹事

- ・PDTガイドライン作成；より安全なPDT医療を提供するために、各分野におけるPDTガイドラインを作成する。

……JPA収支報告（自2004年5月26日至2005年1月10日）

会計：奥仲哲弥

①収入の部

前期繰越金	1,106,777円
会費収入	485,000円
預金利息	4円
収入総計	1,591,781円

②支出の部

ガイドライン発送費	6,630円
第14回JPA補助金	400,000円
支出総計	406,630円

①－②＝③繰越収支差額 1,185,151円

……第 15 回 日本光線力学学会学術集会のご案内

日時：2005 年 06 月 11 日（土）13:30～12 日（日）12:00

場所：磐田グランドホテル（静岡県磐田市）

懇親会：06 月 11 日（土）19:30～

第 15 回 日本光線力学学会学術集会会長：尾花 明（聖隷浜松病院、浜松医科大学光量子医学研究センター）
<http://hamamatsu-daisuki.net/hamacon/icos/convention/jpa2005>

……2005 年度 学会開催のご案内

2005 年 6 月 22-25 日 10th World Congress of the International Photodynamic Association (IPA)
in Munich, Germany <http://www.ipa2005.com>

2005 年 9 月 7-10 日 16th World Congress of the International Society for Laser Surgery and
Medicine (ISLSM) <http://tokyo-med.ac.jp/surg1/islsm/>

2005 年 9 月 9-10 日 第 26 回 NPO 法人 日本レーザー医学会総会
<http://tokyo-med.ac.jp/surg1/jslsm/>

会 場： 京王プラザホテル、東京

大会長： 加藤 治文

事務局： 東京医科大学 外科学第一講座

……事務局からのお知らせ

・会員名簿更新のため、現在の連絡先を同封の会員登録用紙にご記入のうえ、2 月末日までに FAX もしくはメールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。今後は、e-mail にてニュース・レターの配信等を計画いたしておりますので、メールアドレスを必ずご記入いただきますようお願いいたします。

尚、連絡のない場合は自動的に退会とさせていただきますので、ご了承ください。

事務局電話番号 : 03-3342-6111 内線 5071

事務局ファックス番号 : 03-3349-0326

事務局メールアドレス : kuroiwa@tokyo-med.ac.jp

・平成 17 年度より年会費の徴収法が変更いたします。郵便振込みにて年会費を徴収することに決まりましたので、お手数ですが同封の郵便振替にて年会費 5,000 円を 3 月 31 日までにお振込みいただきますようお願い申し上げます。

尚、原則的に 2 年間未納の場合は自動的に退会とさせていただきますので、御了承下さい。

年会費 平成 17 年度 5,000 円

会計年度 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日迄

振込期日 3 月末日迄にお願い致します。

振込方法 同封の郵便振替のみとさせていただきます。

……新規入会のご案内

JPA 入会希望者がいらっしゃいましたら事務局までお知らせください。後日、入会登録用紙を郵送いたします。

……日本光線力学学会 役員 (平成16年-17年)

名誉会長	早田 義博			
会長	加藤 治文			
副会長	平嶋 登志夫	中島 進		
幹事	會沢 勝夫	奥仲 哲弥	尾花 明	
	金子 貞男	阪田 功	竹村 健	
	三木 徳彦	林 潤一	吉田 孝人	
	平野 達	中村 哲也	室谷 哲弥	
	南 三郎			
監事	西坂 剛	三村 征四郎		
会計	奥仲 哲弥			
事務局	東京医科大学 第一外科			

……編集後記

JPA NEWS LETTER の創刊号をお届けします。加藤会長のご挨拶の中で JPA の生い立ちが紹介されていますが、第1回の JPA は2001年に開催されました。つまり JPA は、21世紀に新しく誕生した学会と言えましょう。20世紀の末に日本が中心となって PDD や PDT が臨床応用され現在の発展につながっていることは周知の事実ですが、JPA はその歴史を引き継いで21世紀において PDD や PDT をさらに大きく発展させるのにふさわしい活動母体であります。これまで会員相互の交流は年に1回開催される学術集会に限られていて、学会から会員への情報伝達も十分とは言えませんでした。第14回の幹事会において、会誌あるいは会報のようなものを作って様々な情報を会員に発信していこうとの加藤会長の発案から、この JPA NEWS LETTER は生まれました。今後も会員の皆様には随時 NEWS LETTER をお届けする予定ですが、内容などについてご意見やご要望があれば、是非事務局までご一報ください。最後に、創刊号の枠組みを作っていただいた事務局の黒岩ゆかり先生に、この紙面を借りて心より感謝いたします。

編集委員長：中村哲也



日本光線力学学会事務局 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
東京医科大学 外科学第一講座
☎ : 03-3342-6111 (内線 5071)、fax : 03-3349-0326
事務局メールアドレス : kuroiwa@tokyo-med.ac.jp